

# やくわえ



No.96

平成29年2月1日発行  
東京都神道青年会会報

表紙写真

平成28年8月4日～5日

第18回なつやすみ子供神社体験学習風景

二年間を振り返って



会長 田中 芳明

大切な会をお預かりしてから早くも一年半が過ぎました。会長という重責を務めるにあたり、年毎にテーマを設けて運営しました。

一年目、まずは都神青が一つの塊になるよう「垣根を越えた交流」をテーマに、研鑽と懇親を深めました。その中で、先輩方との縦の繋がり、会員同士の横の繋がりを強く感じた一年でした。

二年目は、私が長年大事にしてまいりました「次世代への継承」を大きなテーマとしました。自分達が経験したことは先輩方から頂いた財産であり、次の世代へ引き継ぐ責任があると思います。

諸先輩方におかれましては、いつも変わらぬ暖かいご指導をありがとうございます。会長として歩ませて頂いた二年間、ふと先輩方の足跡・思いを感じるがありました。次世代の会員達が迷わ

ないよう、同じように道しるべを刻みながら歩んだつもりです。青年会活動では、いつも変わらない風景や景色があり、その場に行くだけで先輩方の現役時代の姿が頭をよぎりました。

会員各位には、何度も都神青の魅力について語ってまいりました。

【都神青の魅力は】

- ① 一生付き合っていきたいと思える仲間、尊敬できる先輩がたくさんとできる。
- ② 各事業を通じて自己研鑽・教養を高めることができる。
- ③ 同じ青年神職同士、情報を共有することができ。

青年会活動に無駄なことはありません。一つ一つの経験が自信になり、力になり、そして財産になります。また、若さは武器だと思えます。四十歳までと限りある時間の中で、青年神職だからできることを模索・実施して、多くのことを経験して下さい。

先輩方が当会に愛情を注いできたように、この先どれ程時代が過ぎようとも同じように愛情を注ぎ続ける都神青であって欲しいと切に願います。二年間、本当にありがとうございました。

副会長 押見昌純



今期も二年間、都神青で貴重な経験をさせて頂きました。

都神青では、年間数多くの事業を

展開していますが、毎年同じ事業であっても、もちろん順調に進む事業ばかりとは限らず、今期も思ってもよらぬ問題が発生することがありました。しかし、腹を割って話し合い、交渉し、一つ一つを解決し、より充実した内容の事業に成長して行く。これらの経験が自分の経験値となり、何より仲間との関係が深まってかけがえのない財産に。このことが、事業が終わる度に、青年会らしいなあと感じ、先輩達も同じような経験をして来たんだなあと、感じる事ができました。

これからも、永く貴重な経験ができる場であって欲しいと思えます。

《会長より一言》困った時は一番初めに相談をさせて頂きました。同じ時を過ごさせて頂くと思います。

副会長 三笠貴春



おおっ「二年間を振り返って」の執筆依頼がくるなんて、もうそんな時期ですか。二年なんて、あっという間ですね。早いなあ。

この二年間は会長の情熱に引っ張られるままに、いろいろとお手伝いをさせて頂きました。

どれほどのお役に立てたものかわかりませんが、私にとりましては、十七年の青年会生活の中で、一番充実した二年間でした。副会長をお任せ頂いた会長には、とても感謝しております。

青年会の活動は、負担を伴うものが多いのは事実です。しかし大切なのは得た経験をいかに活かすかです。青年会活動に無駄なこと何一つありません。社務でも必ず活かされます。それこそ私が十七年間の青年会活動で得た結論です。若い皆さん、青年会に参加して、貴重な経験と仲間をたくさん得て下さい。将来必ず役に立ちますよ。

《会長より一言》なつ体は一生の思い出。三笠さんの資料で助かる後輩が沢山いると思います(笑)

副会長 大野裕丈



副会長という大役を仰せつかり、二年間、当会の一翼を担わせて頂くべく「筋道を通し、成すべき事を成す」ということを自身のスローガンにして事業に邁進させて頂きました。

一年目の体験学習では、副実行委員長として、会を代表させて頂き、無事完遂することができました。素晴らしい仲間を持てたことの有難さを改めて実感し、心から感謝致しました。

二年目には、東京都慰霊堂慰霊祭の斎主を務めさせて頂きました。震災や戦災を経験された当時の神職の大先輩が書かれた祝詞を読み、その当時の想いを心に刻み、ご奉仕をさせて頂きました。御霊に心からの慰霊の誠を捧げられたことは、唯々感謝の気持ちで一杯です。努力することが明日に繋がり、信頼に通ずる。そのことを忘れず、これからも仲間との絆を大切に日々研鑽してまいります。

《会長より一言》祝！ 痛風（笑）  
体に気を付けて次期二年間思い切り楽しんでください。

議長 宮崎真一



議長の大役を仰せつかって、もうすぐ早二年。議長の役目は会則に規定されている通り、議決を必要とする会議の長として会議進行を司ることである。

出席者の貴重な時間を頂いている以上、会議は議論を活発にして充実した内容でなければと思う反面、会議場所の退出時刻、会議後の懇親会の時刻もあり、それらのバランスをとることが非常に難しい。役員メーリングリスト等を活用して資料を事前に閲覧し、問題点を洗い出しておけば会議本番にスムーズな進行が期待できるが、これもなかなか徹底できない。

また、今期は議長が時局対策委員会・社会奉仕委員会の担当三役であった。はたして委員会の活動に「青年神職」として主体的に取り組むことができたか。委員会の成長や自分の成長に繋げることができただろうか……。反省しつつ、残りの任期を全うしたい。

《会長より一言》スムーズな議事進行ありがとう。幸せになつてください（笑）

時局対策委員会 委員長



森下雅仁

副委員長



三笠智春

第三部を終えて、第四部に再登場した空条承太郎のように、最前線で動いていても、もはや主力ではない実感があり、奇妙な寂しさを感じた今期だった。

二年間、常に陰から会を見守ってきた。大して力になれなかったと反省しているが、つまりは、それだけ若手が頑張った。ということである。ようやくなのか、あつという間であったのか、正会員から賛助会員になる日がやってきた。これでやっと肩の荷が降ろせる。会長の大きな目標であった「次世代への継承」は成功したと確信している。これからは更に遠い立場になるが、ずっと会を見守り続けたいと思う。おかげさまで禁煙は今のところ成功している。 森下雅仁

《担当三役より一言》森下さん「僕は静かに卒業するんだ」って仰っていたのは……冗談ですよ？

社会奉仕委員会 委員長



高橋秀史

副委員長



倉光秀尚

今期二年間が始まる前、田中会長より社会奉仕委員長をとの話しを頂きました。受けてはみたものの、いざ事業を掘り起こそうと試みると、思った以上に行き詰まってしまう、結果、新規事業を一つも起こすことができなかった二年間となり、申し訳なく思っています。しかし、この委員会を託され日々のような事業を新しく起こそうかと考えているときに、この委員会の本来の意味は神明奉仕を行う上で、神職が忘れてはいけない、人としての心の部分を考える部署であるようにも思えた今期でした。

そして、就任挨拶での禁煙宣言も結局果たせず、自分の甘さを痛感した二年でもありました。 高橋秀史

《担当三役より一言》生けるレジエント高橋さんとお仕事できて幸せでした……。 (本音は大変でした)

総務部



部長  
大鳥居良人

会計  
服部佑子

「総務部長は会長の懐刀であるべし」という言葉を聞くことがあります。この二年間、とんだナマクラ刀で役員を始め会員の皆様にはご迷惑をお掛け致しました。

総務部として青年会会務の円滑な運営に務めると共に、事業に参加した会員が自己の研鑽に励みつつ、相互に親睦を深め楽しめるような雰囲気作りを心掛けてきたつもりではありますが、まだまだ足りない点が多かったと反省しております。

諸々至らず頼りない部長でしたが、厳しくも優しい会計さん、個性豊かな庶務の皆さんに支えられ、何とか任期を全うできそうです。お世話になった方々への感謝の気持ちを抱き、今後も研鑽していきたいと思えます。二年間、本当にありがとうございました。大鳥居良人



庶務(総務)  
守谷幸乃

庶務(教養)  
池田孝史

庶務(教化)  
早川真由子

庶務(渉外)  
柳田守章

庶務(広報)  
本橋知子

庶務(事業)  
関龍太郎

《担当三役より一言》この部、個性豊か過ぎて私にはコントロール出来ず。でも、このメンバーは都神青の縁の下の剛力！

教養部



部長  
濱中伸洋

副部長  
鳥前永祐

幹事  
鎌田玲沙

今期が始まるに当たり、田中会長より教養部長のお願いをされた時は、教養部としての経験のない自分がなぜ？ という思いがありました。経験も無いままでスタートし、歴代部長経験者の方々のアドバイスを頂きつつ、手探り状態で進む中、事業を行う毎に部員の皆様の力の大きさを実感することができたのは部長として大変有難いことでした。

まだまだ個人的には反省すべき点が多々ありますが、信頼しついできて下さった部員の皆様に心から感謝したいと思います。

今期の経験を糧にして、今後の青年会活動や社務へ活かせるようにしていきたいです。濱中伸洋

《担当三役より一言》濱中部長の男気の下、結束力抜群の部員達。歴代でも光る活躍っぷり。拍手

教化部



部長  
平岡好仁

副部長  
森田尚久

幹事  
恵川剛

この二年間を振り返ると、私は先ず反省です。会長から頂いた役目をどんな形であれ、途中で投げ出す形になってしまい、役員をはじめ部員、先輩方には、大変なご迷惑とご心配をお掛け致しました。本当に申し訳ございませんでした。しかしながら、この二年間で自身の立場を改めて見つめ直し、同志への感謝の気持ちを想起することができました。この気持ちは一生をかけて心に留めます。立ち止まって深く考えた時期もありましたが、またこうして進むことを選ばせてくれたのも青年会。教化部は六月までの任期ですが、最後まで何卒宜しくお願い致します。平岡好仁

《担当三役より一言》来年は氏子青年会五十周年です！素晴らしい記念大会になるよう頑張ろう！

渉外部



部長  
鈴木淑人

副部長  
小泉宜久

幹事  
瀬川真澄

渉外部長としてのお役を頂き二年間が過ぎた。神青協の各種事業の案内や一七協事務局などの仕事をさせて頂き、三月十一日には一七協にて初めての各単位会と共に、行方不明の大震災の慰霊祭早期復興祈願祭を大洗の地で行うこともできた。

初年度、八月十五日の東京都慰霊堂での慰霊祭では、終戦七十年ということでの行政の事業もあり、開催が危ぶまれた。しかし、諸先輩のご尽力で時間の変更を行い開催ができ、百名を超える方にご参列を頂いた。

至らない点が多々あり、ご迷惑をお掛けしたが、皆様に支えられたの二年間であった。鈴木淑人

《担当三役より一言》この二年間で色々なことがあった部だが、様々な経験を重ねた部員は強くなった。

広報部



部長  
山口瑛子

副部長  
清水雄介

幹事  
田部景子

九十三号で就任挨拶を書いたかと思えば、あつという間に二年間を振り返る時期に。毎号、入稿メ切直前まで校正を繰り返す、この二年は常にやくわえのことが頭から離れませんでした。何とか無事に最後の号を発行することができました。果たして、今期広報部「らしさ」は出せたでしょうか。

今期から本格的に立ち上げた都神青フェイスブックページの運営も、当会の存在と活動内容を更に広く知って頂く新たな方法として、大切な仕事の一つになりました。広報部で学んだことをしっかりと活かしながら、今後の都神青活動や社務に取り組んでいきたいと思っています。

山口瑛子

《担当三役より一言》ね。文章も校正もPC画面もみんな友達。怖くなんかないさ。広報部魂全開だ！

事業部



部長  
松尾 聖

副部長  
佐々木隆之

幹事  
高橋典子

今期、各事業には大変多くの方に参加頂いた。これは役員をはじめ部員・諸先輩方が積極的にお声掛けして頂いたおかげである。皆さんの協力がなければ大勢の参加は叶わなかったし、当会も盛り上がりなかつただろう。

事業を経て知り合った福島神青や神奈川神青といった、会を越えた仲間もできなかった。「人の助けを素直にありがたいと思う気持ち」を改めて教えられた。就任時の目標であった「当会を引っ張ること」それを実現させたのは、私ではなく当会に関わる方全員であろう。私は事業部部長を経て「仕事で人に甘えること」を覚えた(笑)

松尾聖

《担当三役より一言》絶対調事業部！部長を中心に楽しい懇親事業をありがとう！本当に癒されました。残り任期も頑張りますよ。

監事 松岡由里子



青年会最後の今期、あまりお役に立てずに申し訳なかつた。長きに亘り会に身を置き、先輩・後輩の皆さんと共に貴重な経験をした日々が、走馬灯のように駆け巡っていく。沢山の仲間にも恵まれ、自社や一人ではなかなかできないことを会の活動を通して体験し、多くの時間を共にすることができた。そして、いつも思ったのだが「青年会はやはり凄いな」と。皆の力を結集すれば何事も成し遂げられる。それを実感できる機会に恵まれてもありがたかつた。こういった経験は日々の社務の糧になつており、是非とも多くの若い青年神職の皆さんに味わってもらいたいと強く願っている。

「次世代への継承」を掲げていた今期だが、しっかりと後進は育ってきていると感じる。次の七十周年、ひいては百周年に向かって多くの若手が会を活性化し、神社界を牽引してもらえれば、私も嬉しい限りである。

《会長より一言》会長の任をお預かりさせて頂いたこと、心から感謝しています。

監事 北川貴史



毎回、このテーマをいただく、二年間の思い出を書かせて頂いておりましたが、今期で都神青の正会員

を卒業し、来期からは賛助会員になる、という少し淋しい気持ちで書かせてもらいます。本橋会長期の二年目から青年会に加えて頂き、八期にわたる十五年間、様々な経験と素晴らしい思い出を得ることができました。中でも、佐々木統一先輩より神青協の遷宮委員に推薦して頂いてから、委員・役員を十三年務め、全国各地に出向しながら多くの同志と交誼を深められたことは、一番の財産になっております。

今期は微力ながら、後輩にバトンを繋げるように活動してまいりました。諸先輩の姿のように私も会を卒業しても現会員のように理解者になれるよう努めたいと思います。

青年会に携わることができ、本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

《会長より一言》いつも助けて頂き有難うございました。今後も一生のお付き合いをお願いします。

監事 大塚圭一郎



今期卒業の自分は、二年間と同時にのことも振り返ってしまおう。

若い間に苦勞を経験する。とても大切なことだと改めて思う。青年会は、そのような場であった。適度な緊張感、必ずやその人間を一回りも二回りも大きくさせてくれる。そして、ただやらされていくのか、自ら進んでやっているのか。その僅かな意識の違いで、同じ時間・経験が意味あるものに変わっていくようにも思う。

また、諸先輩方には、ご自身を持たれている経験や才を自然に分け与えて頂き、ご指導下さった。これが人として感化させるのではないだろうか。今期都神青は、初めての部長や役員が多い中、それぞれに責任を持って臨んでいた。その後輩達に、何か伝えることができたか。今は自問するばかりであるが、彼らには田中会長期で得た経験を次に活かし、五年十年と先を見据えながら、これからも活動を続けて頂きたい。

《会長より一言》大塚さんのあのメールで会長を決心しました。二十八日会は永遠に(笑)

活動報告

心を一つに御滝へ

七月七日・八日、武蔵御嶽神社の御神域に於いて、篠直嗣・奥野雅司両道彦、守谷徳之・八木健一郎・大野裕丈・細野喜久各助彦のご指導のもと田中芳明会長以下三十二名にて神道行法錬成研修会が開催された。

初日、開講式には都神社庁小野貴嗣庁長をはじめ多くのご来賓の方々に励ましのお言葉を頂いた。その後、始禊祭が行われ、お水を頂きに御滝まで参道を心一つに駆け抜けていった。

夜の講話では、田村康雄理事より神社庁や都神青の諸活動について、また神職としての在り方や必要な志についてご講話頂いた。

二日目は、早朝よりお水を頂きに御滝へ、七月という暑い時期ではあったが滝の水は、とても冷たくより一層心身共に引き締められた。その後、武蔵御嶽神社正式参拝を行い参加者全員無事に錬成会が終了したことを御奉告申し上げることができ、直会では、参加者相互の親睦を深められた。今研修

を通して、日々の奉仕にて忘れかけていた心を鍛え直す充実した二日間となった。(内海通人)



伝えていく慰霊の心

八月十五日、本年も東京都慰霊堂にて都内戦災震災殉難者慰霊祭を執り行い、東京の二十万人を超える戦災震災殉難者を合わせ祀る同堂の御霊に感謝と哀悼の誠を捧げた。また戦争終結のこの日、御國の安泰と、世界の平和推進をお誓い申し上げるべく、靖國神社への正式参拝を行った。

本年は事前の習礼として八月九日に祭祀講師の春日規子祭祀講師、八木健一郎祭祀助教のご指導の下習礼を行い、当日も先生にご指導



(鈴木淑人)

を頂き厳肅な祭典を行った。慰霊祭では、都神社庁役員や都氏青協の石川会長以下役員の方々をはじめ八十五名に参列頂いた。靖國神社参拝では、なつやすみ子供神社体験学習に参加したお子様やご家族二十九名を含む総勢百五十名の方々にご参列を頂くことができた。我々神職は靖國神社へ参拝する機会が多いが、会員だけではなく、関係団体や体験学習の参加者など一般の方と心をついに靖國神社の英霊への感謝をささげることができた有意義な参拝であった。

### 東京都慰霊堂都内戦災震災殉難者慰霊祭 祭詞

此の東京都慰霊堂を嚴の斎場と被ひ清めて神籬差し立て招き奉り坐せ奉る 是の東の京の地に於ける 関東大震災並びに大東亜戦争の禍事により御生命果て給いし殉難者等の御霊の御前に 斎主東京都神道青年会副会長大野裕夫 謹み敬ひて白さく

今より九十年余りを遡りし大正十二年九月一日 関東大震災と呼ばるる未曾有の大地震が東の京を襲ひ来たり この大震災は荒ぶる神の御業にして人の身には為す術無く 大き小さき家の数々毀れ落ち崩れ 町の隅々日は二日 夜は二夜 荒れ狂う風の随々に焼け擴がりて 多くの尊き御生命失わせ給ひしは 最と悲しき極みにぞ在りける 此の悲しき事を後の世に迄語り 傳え 現世を神去り給ひし汝命達の御霊を只管に懇ろに慰め祀らむとす

時は移りて昭和十六年 此の頃の我が日本国を取り巻く世界情勢は厳しく成り行き 十二月八日に至りて 仇なす国々より我が国を守らむと為て 遂に大東亜の大戦を開く事とは成りぬ 此の大戦 当初めは畳畳しや胡しやの聲高らかに 次々と突き進み 大じき戦果を挙げても 時経る毎に戦は激しさを増し 其の激しき戦の庭に身を削り 骨を砕きて戦う我が日本軍兵士達 菊の花香ばしく遠き野山に草生す屍 千尋の海に水漬く屍と勇しく戦ひしも 次第に我が国の勢ひは衰え 此の東の京迄米軍爆撃機の空襲を受くる状態と成り 終に昭和二十年三月十日夜 襲ひ来る爆撃機は江東・墨田・台東区の空を覆ひ 焼夷弾は雨霞の如く降り注ぎて 瞬く間に全てを焼き尽し 一夜にして十万余の尊き御生命を奪ふ地獄の如き様相と成りぬ 此の最惨き状景を思ひ起すに 正に口惜しく痛ましく悔しき極みと胸裂くるばかり成り

先の戦終りてより新玉の年月は雲の流れの流れ往く如く夢と過ぎしも 八月十五日の今日を生日の足日と選び定めて 年毎の例と慰霊祭仕之奉ると為て 東京都神道青年会会長田中芳明伊神道政治連盟東京都本部部長清水祥彦伊 東京都神社庁長小野貴嗣伊を始め会員諸々客人等御前に参集ひ 御饌御酒海山川山野の種々の味物を供奉り 東京都神社庁を始め都内各支部神道政治連盟東京都本部 東京都神社庁神道婦人会 東京都氏子青年協議会より御霊和めの花々を手折添えて 汝命達の御霊を安鎮奉安らむと慰霊の御祭仕之奉る由を幽忘に閑食し給ひ 汝命達の護りし此の日本国に今も往く先も戦の起る事無く 四方の国々皆同胞と交わり 共に力を協せ手を携えて平穩に和する事を堅く誓ひ奉るを以て 御心平穩に閑食し諾ひ給ひ神霊は幸霊奇霊と靈幸ひ坐して 汝命達御心安らかに鎮まり坐せと 幽冥ながらも子孫の御世を守り給ひ幸へ給へと謹み敬ひて拝み奉らくと白す

平成二十八年八月十五日

### 日本の「道」を学ぶ

八月四日・五日、明治神宮にて都神社庁主催・都神青共催の第十八回なつやすみ子供神社体験学習が開催され、小学四年生から六年生まで計七十二名が参加した。

今年、例年のプログラムの他、「道」をテーマにした、以下のようなプログラムを企画した。

「神道」作法・禊・夜間参拝等

「食道」食事の作法・心構え

「書道」祓詞書写

「芸道」能・狂言体験

「武道」剣道、居合道、空手道演

武見学・空手道体験

「楽道」雅楽鑑賞・体験



各「道」プログラムに対しての、子供達の反応は好評な様子で、祓詞は実際に書くことにより、より理解を深められ、雅楽鑑賞・体験についても、感想文の中で触れている子供が多かった。特に武道は、演者たちの迫真の演武に、子供達は真剣に見入っており、空手道体験も楽しみながらも熱心に型を教わっていた。



今回の「道」プログラムは、いずれも、普段なかなか接する機会がないものであるだけに、それぞれ

興味津々で体験を行っていた。



毎年人気のプログラムである演劇では「天の岩戸」の神話劇を行った。今年には保護者にも観ていただけるようにと、例年の会館大広間ではなく、参集殿をお借りして行った。三十名近い保護者の皆様にご覧いただくことができ、こちらも好評を頂いた。



また今年他にも、一日日夜を長めの自由時間にしたり、おやつ

をアイスクャンデーにしたりと、例年と違うやり方を行ったところ、概ね良好な結果となった。

今回、子供達は様々な「道」を体験し学習した。道には、文字や言葉では伝わらない先人たちの知恵や心が込められた「型」や「作法」がある。その実践を通して道を学び、後世へ伝えていく。「人の道」にも「道徳」という作法がある。子供達には今回の体験学習をから、先人たちの伝えてきた「道」を学び、「道」の大切さを知り、自分たちのこれからの歩みに役立てて欲しい。



尚、毎年八月十五日に終戦記念日靖國神社参拝を行っているが、昨年引き続き、参拝のご案内を行ったところ、参加児童八名を含む二十九名にご参加頂き、共に参拝をして頂いた。(三笠貴春)

### 夏のひととき

八月十七日、昨年の好評を受け、今年も鎌倉市材木座海岸にて夏の野外懇親会を行った。今回は福島神青に加え、神奈川神青とも合同での開催となり、総勢八十二名の参加となった。

当日は台風の直撃が予想されたものの奇跡的に回避され、普段波の立たない海岸に程良い波が打ち寄せる中、海水浴を楽しむことができた。

お昼は海沿いのレストランでBBQを行い、肉や魚介、アジア料理に舌鼓を打った。また余興として釣りクラブと共同で、参加の子供達に釣ってきた魚を鑑賞させ放流する企画を行った。魚を見る子供達の笑顔が印象的であった。クラブ員の守谷相談役をはじめとする有志で、早朝より荒波立つ中、たくさんのお魚を釣って頂いたことに深く感謝した。



レストランでゆっくり過ごす者、海水浴を長く楽しむ者に分かれ、各々が夏のひとときを過ごした。余りの居心地の良さに予定よりも長く滞在してしまい、後ろ髪を引かれる中、材木座を後にした。両県神青に別れを告げた後、当会は横須賀市馬堀海岸にある温泉に入り帰路についた。事業が立て続けにあった夏の疲れを癒す一日となった。

(松尾聖)



### 調子を合わせて

九月二十一日・十月十二日の二日間、都神社庁に於いて都神社庁雅楽講師小野貴嗣先生はじめ、四名の先生方のもと、雅楽研修会が開催された。

初日は各管に分かれ研修を行い、平調音取・越殿楽・五常楽急を中心に姿勢・運指・唱歌・吹き方のコツ等を分かり易くご指導頂いた。二日目も午前中は各管に分かれ、前回の反省点を踏まえつつ研修に臨んだ。

午後からは総仕上げとして三管を受講生、三鼓を先生方が奏で、神前奉納を行った。

閉講式後の懇親会では緊張していた受講生も打ち解け、研修中に聞けなかった質問をする等、終始和やかな雰囲気の中進み、散会となった。

(高島俊亮)



### ストライター

十月三十一日、昨年に続き東京ドームボウリングセンターに於いて、懇親ボウリング大会が開催された。ご家族で参加された方も多く、子供九名を含む総勢五十名で和やかに開催することができた。

田中会長による、輝かしいゴールデンボールでの始球式にて幕を開けた大会は、各レーン久々のボウリングという参加者も多く、皆ボールの行方に一喜一憂しながら個人賞・チーム賞を目指し、和気藹々とプレーを楽しんだ。

その後、敷地内のMLBカフェトウキョウへ場を移し、表彰式ならびに懇親会が行われた。健闘の結果、稲荷鬼王神社大久保直倫宮司夫人の玲奈さんが栄光を勝ち取った。

諸先輩方や役員・会員皆様のお声掛けもあり、各お社の職員の方にも多くのご参加を頂き、懇親を深めることができた。

(岡部佐樹子)



### 新年に向けて……

十一月二十九日・三十日と熱海  
聚楽ホテル月の栖にて忘年旅行が  
行われ、師走月次祭を目前ながら、  
先輩方・相談役七名を含む計三十  
一名が参加した。

先輩方からのご挨拶や乾杯のご  
発声の後、美味しい地の料理に舌  
鼓を打ちながらも、先輩方からは  
現役当時の貴重なお話を伺い、今  
後の活動に向けて士気を高めるこ  
とができた。



二次会は、地元・來宮神社宮司、  
雨宮盛克様にもご参加頂き、先輩  
方の美声や会員達の熱唱、女子会  
員のダンス……と新たな一面を垣

間見ながら和やかに会は進んだ。  
雨宮宮司様には「東京の皆様から  
パワーを頂いた」と有難いお言葉  
を頂戴し、翌日には各々來宮神社  
をお参りすることを約束し、お開  
きとなった。その後も温泉や各部  
屋での懇親が続くなか、熱海の夜  
は更けていった。

各々多忙な年末年始に向けて、  
束の間の休息で鋭気を養うことが  
できたであろう。(岡部佐樹子)

### ニューズ一

#### 神青協夏期セミナー

八月二十九日・三十日、神社本  
庁大講堂にて「人づくりは国づく  
り」愛と感動の青年神職」と題  
して神青協夏期セミナーが開催さ  
れた。

初日の第一講では、東京デイズ  
ニールゾートの経営で知られるオ  
リエンタルランドで人材育成を担  
当された鎌田先生より、人材育成  
の方法や地域への貢献の仕方など  
を学んだ。第二講では、有名ホテ  
ルのザ・リッツ・カールトンにて  
日本支社長をされていた高野先生  
より、日本のおもてなしの精神と  
「何をもって何をなすべき」とい

う題にて、コミュニケーションの  
向上と意識改革の向上についての  
講義を頂いた。

翌日の第三講  
では、文化財の  
修復作業などを  
手掛ける小西美  
術工藝社社長の  
デービッド・ア  
トキンソン先生  
より、文化財の  
修復作業や経済  
アナリストの視  
点から日本にお  
ける今後の経済動向や文化財の修  
復の必要性などを学んだ。



この夏期セミナーを通して、青  
年神職として人材育成や氏子地域  
へのコミュニケーションの方法な  
どを勉強することができ、非常に  
有意義な二日間であった。

(鈴木淑人)

#### 東西神社人親善野球大会

八月二十九日・三十日、恒例の  
東西神社人親善野球大会が三十七  
回目を迎え、東京、太宰府・宗像、  
出雲・金刀比羅、神宮、熱田、兵  
庫の六チームが参加して、ほっと  
もっとフィールド神戸球場で開催

された。東京からは二十四名が参  
戦、普段は別チームの面々が一丸  
となって大会に臨んだ。

東京チームは組み合わせに恵ま  
れ決勝戦へと勝ち進み、決勝戦は  
昨年の優勝の太  
宰府・宗像チー  
ムと戦い、七対  
一で試合終了。  
第二十四回大会  
以来十六年ぶり、  
奇しくも前回優  
勝時と同じ球場  
(当時の名称は  
グリーンスタジ  
アム神戸)で、  
通算五度目の優  
勝を成し遂げた。  
尚、最優秀選手には、明治神宮の  
梶明嗣選手が選ばれた。



(三笠智春)

#### 一都七県神職野球大会

九月二十六日、第二十回一都七  
県神職野球大会が明治神宮外苑軟  
式野球場に於いて千葉県神道青年  
会の主管により開催された。  
一都七県で、埼玉県と神奈川県  
が二チームずつ出すため八都県で  
十チーム、総勢一四〇名の参加と

なった今回は、九月下旬にも関わらず三十度を超す真夏日の中での大会となった。

一回戦は、シード、二回戦準決勝と快勝し、迎えた決勝戦は昨年と同様に神奈川Kチーム。雪辱に燃える相手に対し若い選手達の奮闘により勝利、見事大会初の四連覇を成し遂げた。



この大会でのみ顔を合わせる方も少なくないため旧交を温める良い機会である。(濱中貴文)

### 神青協臨時総会

十一月九日、本社本庁にて神青協臨時総会が開催された。

次期会長には、佐野巖氏(神奈川県)、次期監事には松田典起氏(福井県)・東角井真臣氏(埼玉県)・河原忠徳氏(長崎県)が選出され、全会一致で承認された。

(大鳥居良人)

### 一七協フットサル大会

十一月二十四日、国立代々木競技場フットサルコートに於いて、一七協親睦フットサル大会が開催された。東京都からは六名の会員が参加。試合や懇親会を通して各単位の会員同士、親睦を深めた。

当日、東京都心では五十四年ぶりと成る十一月の初雪を観測。雪降る中での開催となったが参加者にとつては非常に思ひ出深い大会であった。

始めは東京が主幹だった本大会も、一七協の親睦事業として根付いてきたと感じられた。



(平岡好仁)



### コラム

最近、旧知の友がVR関連の会社を興した。最近話題となっているVRとは、バーチャリアリティ(仮想現実)の略語。概念自体は古く七〇年代に遡り、映画では「トータルリコール」(Total Recall)、「マトリックス」(The Matrix)などで、モチーフとなってきた。最近では、リオ五輪閉会式での次回東京五輪のプレゼンテーションやスマホ用ゲーム『ポケモンGO』のAR(拡張現実)が、記憶に新しい。

近未来の姿を示してきたVRの世界観であるが、意外にも技術的には、すでに実現可能・あるいは実現性が高いものも多いらしい。すなわち、既存の個別の技術は必要な要件を満たしており、それらを再統合再構築することで種々のVRが実現できるという。市場では、『プレステVR』や『ギョラクシーギアVR』といった商品が発売され、KDDIでは、『SY NCTラベル』というリアルタイム遠隔海外旅行サービスを提供する。これらが、本年がVR元年といわれる由縁である。

グーグルのユーチューブライブストリーミングも将来的にはVRを想定しているそうだ。5Gの次世代通信では、8Kの三六〇度映像ライブ配信が可能になる。また当面はスマートフォンや専用ヘッドマウントディスプレイを用いる方法になるが、今後空間を利用したディスプレイが可能になれば、さらに表現の幅が広がる。

直近の目標としては二〇二〇東京五輪までどこまで技術が進むかが焦点となるが、さらなる投資と技術革新が望まれるところである。以上が、友人からの聞きかじりである。

同期の神職と全国を旅して、多くの神社仏閣を参拝したが、祭礼日に予定を合わせて訪れるのはとても困難だった。「ハレとケ」と言われるように、普段の神社境内は清らかな静謐を保つが、ハレの日の神社境内の場は、日常の雰囲気とは一変する。見てみたい珍祭奇祭があるが、年と共に自由な時間が少なくなっていく。そんなハレの場、例えば蘇民祭や風の盆・火祭りや龍勢を自宅でVRライブ体験する日が、来るかもしれない。

ニ ュ ー ス 二

例 上 祭 助 成  
大 湊 神 社

十月十六日、台東区下谷神社宮司の阿部明德先輩のお声掛けを頂き、宮城県名取市に鎮座する閑上湊神社の例祭を助勢した。閑上地区は東日本大震災で被災し、人的・物的な被害が甚大であった地区である。当神社の元の鎮座地はより名取川に近い場所であったが大震災で社殿が流出し、現在は小高い築山である日和山の富主姫神社社殿に仮殿として御鎮座している。同行メンバーによると、途次、道路が以前来た時よりも高い位置に造成されるなど、風景も徐々に変わりつつあるようである。



東京都神道青年会震災復興支援スローガン  
「忘れない 風化させない」

日和山に到着すると、震災後に都内各社より寄付された子供神輿と大神輿が飾られており、また、助勢の屋台テントが十数張並べられて、地域の子供連れ等で大変賑やかであった。間もなく例祭祭典が始まり、御霊入れの後、大神輿は域内巡行に出発した。巡行の間、急いで「金魚すくい」と「水風船すくい」の準備をした。大神輿還幸後にいよいよ縁日行事が始まった。時間にして約三時間程であったが、特に「金魚すくい」は人気で子供達がひっきりなしに訪れる大盛況であった。(宮崎真一)



神 社 関 係 者 大 会

十月十八日、明治神宮会館にて東京都神社関係者大会が開催された。本年は都神社庁設立七十年記念大会として行われ、三笠宮彬子女王殿下をお迎えし、都内神職及び役員総代ら約千八百名が参加した。都神青会員は彬子女王殿下の警備を務めた。

当日は開式前に物故神職総代に對して黙禱を捧げ、声楽家の鮫島有美子氏による清興が行われ、天皇陛下が作られた琉歌や、皇后陛下が作られた「歌声の響」が披露された。その後、彬子女王殿下より「思いをつなぐ伝える―心游舎が向かう未来―」の演題で記念講演賜った。



記念式典は清水副庁長の開式の辞で始まり、小野庁長、曲谷総代会長代行が式辞を述べ、次に記念表彰が行われた。

次に彬子女王殿下からお言葉を賜った後、北白川道久神社本庁統理の代理として田中恆清総長が挨拶をされ、鷹司尚武神宮大宮司の祝辞を葦津健次郎参事が代読、打田文博神政連会長が挨拶された。続いて参議院議員丸川珠代五輪相をはじめとする来賓が紹介された。齋藤明比古周年事業実行副委員長が大会宣言案を朗読し、満場の拍手で採択された。

小野庁長の先導にて彬子女王殿下が会場を後にされ、全ての日程を終了した。(大鳥居良人)



# 不易流行

## 時局対策委員会

「不易を知らざれば基立ちがたく流行を知らざれば風新たならず」これが本原稿の表題になっている。「不易流行」の語源であり、俳聖と呼ばれた松尾芭蕉が見出した理念のひとつである。

「不易」とは、いつまでも変わらないこと。「流行」は時代に応じて変化すること。つまり「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を取り入れていくこと」であり「新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質」であることを述べている。

この言葉を青年会に浸透させたのは平成五年、当時会長だった篠直嗣先輩であり、平成二十一年四月に、役員研修会に筆頭相談役として特別講師にお招きしたときも「昨今の甚だしい時代の変化の中にあっても継承されてきた精神、あるいはそれらの持つ現代での意味を汲み取って、方法にこだわらず行動に移してほしい」と、変わらぬ精神を我々に伝えて下さったことを思い出した。

年を経て、回を重ねる毎に変化し、進化し続けてきた事業として「なつやすみ子供神社体験学習」が挙げられる。創立五十周年記念事業として、先輩方が手探りの状態から始めた第一回。神社庁教化委員会主催で青年会が共催となった第二回。今回の第十八回を終えて、現在では多くの若手神職が都神青に入会するキッカケとなる一大事業だ。

第六回から参加しているが、当時はとにかく会議が多く、子供用の教化プログラムも、毎回ゼロから企画して作り上げていたので、とにかく苦労した。

しかし、礼儀作法・神主さんのお話し・夜間参拝・早朝の禊・雅楽体験・神話劇・工作の時間と、基本のプログラムが決まっただけはタイムスケジュールを組むのも楽になる。更には國大ボランティアや神道婦人会の助勢を頂けるようになり、慢性的なスタッフ不足も少し改善され、大まかな枠を毎回考える必要がないので、自ずと会議の回数も減り、会員の負担軽

減が成されている。

また、回を重ねることはマンネリにも繋がるのだが、複数のプログラムを少しずつ手を加えながら循環させることによって、リピーターの子供が飽きないよう工夫がされている。

この「やくわえ」も次期で記念の百号を迎え、都神青を代表する事業のひとつである。

平成九年度、森田一先輩が広報部長のとき、ページ数や文字数・行数などを、読みやすい形として「一行十五文字、三十行を四段組みにして、全十六ページで年二回発行」という、今の形を確立させて、現在まで引き継いできた。

毎年の新年会では、参加者全員に新しい「やくわえ」が、いち早く配られ、先輩方（特に広報部経験者）は、みんな校正部会のように真剣な面持ちで目を通してくれているのが、嬉しい風景である。

時代々に応じて「社頭で使える英会話」や「パソコン教室」から発展して「神社で使えるネット活用術」など、そのときの流行を特集記事として組み込むのが部長の腕の見せ所となり、更には「表紙をカラーにする」「部員の負担

を考えて、一月から二月発行に変更」など、やくわえの形式にも変化が見られるようになった。そして今期は何と「全ページオールカラー」という大技に驚いた。

これも「歴代広報部の名に恥じないよう」という、山口広報部長の一大決心であったろうし、それを咎める先輩はいない。

冒頭で述べたが、平成五年度に時局対策委員会が誕生し、初代委員長は今井達先輩。そして歴代委員長は（敬称略）本橋宜彦・葦津元成・大久保直倫・奥野雅司・田中寛之・半田裕明（二期）・栗原健人・森田光教・提箸照之、そして今期へと続く。

平成十九年度（田村康雄会長）には、時局対策委員会と社会奉仕委員会は三役が兼ねるなど、単独の委員会ではなくなったこともあるが、平成二十三年度に復活したのも、都神青の不易流行である。

次代の役員達よ、我々の想いも加えて次の世代、そしてまた新しい世代へ、どうか受け継いで欲しい。そして未来の時局対策委員長よ、役を受けた際は心して挑むがいい。この文字数の原稿を、年に二回執筆するのは大変だぞ。

# 新入会員紹介

## 【新入会員紹介（正会員）】

### 千代田区

春日 貴仁 神田神社

内田 博之 日枝神社

小國 紘平 靖國神社

鈴木 翔太郎 靖國神社

### 台東区

瀧瀬 誠幸 浅草神社

### 港区

山口 貴臣 廣尾稲荷神社

山田 恵美 春日神社

### 渋谷区

中津江 万里 金玉八幡宮

中嶋 皆登 明治神宮

大瀧 寛進 明治神宮

澤田 貴浩 明治神宮

### 杉並区

齋藤 亮大 井草八幡宮

穂高 克彦 井草八幡宮

大丸 美鈴 馬橋稲荷神社

本橋 亮太 馬橋稲荷神社

### 品川区

藤脇 亮 天祖神社

山口 直敬 氷川神社

### 墨田区

花見 明弘 三輪里稲荷神社

田中 康雅 高木神社

春田 華奈 牛島神社

### 江東区

内海 通人 東大島神社

### 足立区

渡邊 喬弘 千住本氷川神社

### 新宿区

齋藤 成惟 穴八幡宮

### 豊島区

鏑木 俊 子安稲荷神社

### 南多摩

八馬 秀満 子安神社

## 【新入会員紹介（賛助会員）】

### 千代田区

松本 聖吾 靖國神社

### 品川区

大野 素道 鹿嶋神社

編集後記



▼都神青に入会してからずっと広報部に籍を置かせて頂いておりましたが、今期をもって無事定年を迎えることができました。大したお役には立てませんでしたが、歴代の部長をはじめ皆様には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。 (井)



▼いよいよ今期で青年会を卒業する。あまりお役には立てなかったが、振り返れば先輩諸兄に大変お世話になった。生涯の友人として今後とも末永くお付き合い頂ければ幸いである。 (早)



▼歴代広報部長には大変お世話になりました。不良部員でしたが、沢山のことを学びました。今後やくわえがどう変わっていくのか、楽しみです！ 期待しています。 (佐)



▼東北の片田舎より上京して、はや二十二年。十八歳の小僧だった自分ももう四十歳。これまでなんとなく生活してきたが、こ

の辺りで心機一転目標をもって生きてみようかな。 (菅)



▼乾いて割れる冬の指先痛いですね。クリームも水仕事や都度の手洗いで落ち易いので液体絆創膏アーチスキンでヒビを塞ぐのがお薦め。但し、激痛を伴います。 (綿)



▼年頭安倍総理大臣の神宮参拝。一昨年までは現場で直に應對し。昨年はテレビで見ながら思い出に浸り。そして本年は……：社務に追われて翌朝の新聞でようやく気付きました(汗) (祐)



▼二年間皆様ありがとうございました。広報部に約四年間在籍させて頂き、貴重な体験ができました。ただあまり活動に参加できず申し訳ございませんでした。 (宮)



▼いつも限られた字数の編集後記。今回は八十文字の巨編。だが、いざ前にするとなかなか出てこない。そう、ここは自由な投書の間。己の意思を示すところ。私の、あ。もう八十字終わ(赤)



▼社頭でのご奉仕も三年目、今までの環境から大きく代わり日々勉強の毎日を過ごして来ました。今後も日々精進してご奉仕していきたいです。今は御朱印が増えて習字を鋭意努力中です。 (月)



▼また気が付けば、この最後の編集後記を書かせていただいたの隅っこに置いていただきました。ありがとうございます。 (岡)



▼授与所にて女の子が迷わず手に取った縁結守。お父様の顔が一瞬固まりました。恋愛の事だけではないのですと説明すると安堵の表情。今年も沢山の良いご縁がありますように。 (景)



▼昨年の夏に初めてギックリ腰になりました。息子とブラジルフェスタで踊って鬼ごっこをしている時に逝ってしまいました。そして年末に掃除で疲れた嫁の腰を伸ばしてあげようと持ち上げた時にまたやっってしまいました。年



に二回もなるなんて……あれ？もしかして歳なのか……：そういえば都神青でも現役では先輩より後輩のが多くなってる気が……(清)  
▼今期最後のやくわえも無事発行！ 広報部の皆様、二年間本当にありがとうございました。平成になつて早二十九年。都神青でも平成生まれがどんどん活躍してくる今日。そこで自然と生まれるのがジェネレーションギャップ。自身も、つい最近の会話で「Sケン」が通じなかった時は、これがジェネレーションギャップか！とショックを受けたが、そういえばあれは同期との会話だったはず。あれ？ 皆さん「Sケン」知らないですか……？ (瑛)



都神青の主な活動と予定

- 【平成二八年】
  - 九月二二日 雅楽研修会一日目 都神社庁
  - 二三日 役員会⑥ 都神社庁
  - 十月十二日 雅楽研修会二日目 都神社庁
  - 十九日 役員会⑦ 都神社庁
  - 三一日 懇親ボウリング大会 東京ドームシティ
  - 十一月十七日 役員会⑧・連絡会③ 都神社庁
  - 二九日・三十日 忘年旅行 熱海
- 【平成二九年】
  - 一月十六日 役員会⑨ 都神社庁
  - 二十日 大寒禊錬成研修会 明治神宮
  - 二六日 新年会 明神会館
  - 二月十一日 「建国記念の日」奉祝パレード 表参道
  - 十三日 臨時総会 都神社庁
  - 十六日 役員会⑩・連絡会④ 都神社庁
  - 三月 二日 祭祀舞研修会 都神社庁
  - 上旬 献血奉仕活動 湯島天満宮
  - 十六日 役員会⑪・連絡会④ 都神社庁
- 四月二十日 定時総会 都神社庁
- 《関係団体の活動と予定》
  - 八月二八日 東西神社人親善 野球大会
  - 兵庫県ほっともつと フィールド神戸
  - 二九日・三十日 神青協夏期セミナー 本社本庁
  - 九月二六日 一都七県神職 野球大会
  - 十一月九日 明治神宮外苑軟式野球場 神青協臨時総会 本社本庁
  - 二四日 一七協 フットサル大会 国立代々木 フットサルコート
  - 十二月十一日 都氏青協 忘年会 大國魂神社
  - 二月十三日 神青協 臨時総会 本社本庁
  - 三月 二日・三日 一七協 研修旅行
  - 二三日・二四日 神青協中央研修会 広島県
  - 四月 神青協 定例総会 本社本庁

釣果を気にする必要なし  
打ち上げからの参加も歓迎！



〈連絡先〉  
森下雅仁  
穴守稲荷神社権禰宜  
morishita.shinsei@gmail.com  
平成8年発足

雅楽を楽しみたい方大歓迎



〈連絡先〉  
佐々木隆之  
天祖神社権禰宜  
03-3821-3470  
平成13年発足

募集！野球部員



〈連絡先〉  
三笠智春  
東京都神社庁主事補  
03-3404-6525  
昭和31年発足

表紙題字  
第三代東京都神社庁長  
大鳥居吾朗先生

東京都神道青年会  
東京都港区元赤坂二―一―三  
東京都神社庁内  
電話 三四〇四―六五二五代

参加者熱烈募集中！



〈連絡先〉  
関龍太郎  
八幡神社権禰宜  
tss.geki@gmail.com  
平成23年発足

初心者大歓迎です！



〈連絡先〉  
平岡好仁  
幸稲荷神社宮司  
03-3431-8281  
平成17年発足

部・クラブ・同好会紹介

釣りクラブ  
雅楽クラブ  
野球部  
フットサル同好会  
演劇同好会